

Fukuoka City Public Library Movie Hall
福岡市総合図書館映像ホール

シネラ

Ciné-là NEWS
シネラ・ニュース
March.2000 No.44

3

【特別企画】

サイレント映画 弁士・楽団付き上映
Vol.4

上映作品:「伊豆の踊子」<主演:田中絹代>

【特別企画】

A.D.2000／映画零年
～作家との対話～

【特集】

ロード・ムービー／旅する映画

特集

田中絹代映画特集



無声映画といふ。でも映画が言葉を使わなくても話したける。威勢の威勢、
おどろきや含み笑いの声や心で伝はる。言葉はなくても、いやな顔、たてまつる
ふんなど、現在の力づいた映画の名。田中絹代、無言。たてまつる。
（田中絹代）

1967年広島県生まれ。スタジオ・マラルテ主宰。「sagi times」編集主幹。エリセやメカスなど、世界の巨匠が参加した『セレプレート シネマ101』（'96年）を監修。'98年にはロシアでソクーロフの助監督に就く。『鯨ポイエーシス』をはじめ、今回の特別企画の映像ネットワークを通し、映像表現のポストモダン化をうけていく。

戦前から戦後にかけて日本を代表する女優の一人・田中絹代の特集

特集 田中絹代 映画特集

陸軍

15 水 19:00
19 日 11:00
24 金 14:00

1944年/35ミリ/モノクロ/88分/松竹
監督/ 火野葦平の同名小説の映画化作品。西南戦争の頃から始まり、大東亜戦争に至るまでの歴史を、小倉で質屋を営む高木家三代の歴史と重ね合わせて描いたもので、明治以降の日本の姿が象徴されている。ラストの博多の街を背景に、母(田中絹代)が出征する息子を延々と見送る場面は、名シーンとして記憶されている。

出演/ 田中絹代 笠智衆



マダムと女房

15 水 14:00
16 木 19:00
18 土 11:00

1931年/35ミリ/モノクロ/57分/松竹
監督/ 五所平之助
出演/ 田中絹代 渡辺篤

郊外の静かな住宅地へ引っ越してきた劇作家だが、隣の家でジャズの演奏をしており、うるさくて仕事がかたらない。劇作家は文句を言い隣の家に行くが、逆にその家のマダムの魅力に参ってしまう。日本初の本格的トーキー映画であり、全編同時録音で撮影されている。女優役の田中絹代の初々しい魅力も話題となった作品。



映画デビューは元禄女(24年)で、14才の時。落第はしたけれど(30年)「マダムと女房」「伊豆の踊子」等の成功で大スターとなり、35年には松竹ナンバーワン女優となる。「愛染かつら」(38年)「陸軍」等の作品に出演し、人気もさることながら、俳優としての成長を見せていく。50年松竹を離れフリーとなる。「西鶴一代女」(煙突の見える場所)「53年」等「雨月物語」(53年)等の生涯の代表作に出演する一方、「恋文」(53年)で監督としてデビューする。この後「月は上りぬ」(55年)等6本の映画を監督する。俳優としてその他の代表作として「橋田寿賀子」(58年)「サンタカン八番娼館」(望郷)等がある。77年死去。

田中絹代は五所平之助、清水宏、溝口健二等多くの名監督に愛された女優であった。また彼女の俳優としての情熱は素晴らしく、とことん演技に打ち込む姿勢はスタッフ達を感服させている。田中絹代はアイドルからスタートし、プロの映画女優へと登り詰めた俳優なのだ。

特別企画 サイレント映画 弁士・楽団付き上映 Vol.4 「伊豆の踊子」

懐かしの無声映画を活弁、楽団付きで上映するシリーズ企画の4回目。今回は田中絹代の無声映画時代の代表作である「伊豆の踊子」を上映。

会期: 3月26日(日) 14:00
観覧料: 1,000円
(往復ハガキによる申し込みが必要)
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※障害者および高齢者割引はありません。
※ホール開場及びチケット販売は13時より。

申し込み方法
往復ハガキに郵便番号、住所、氏名、電話番号、「伊豆の踊子観覧希望」と記入の上、下記住所までお申し込み下さい。応募多数の場合は抽選となります。応募締め切りは3月15日まで。お一人様ハガキ一枚で応募して下さい。
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館 映像資料課宛

西鶴一代女

16 木 14:00
19 日 15:00
24 金 19:00

1952年/35ミリ/モノクロ/137分/新東宝=児井プロ
監督/ 溝口健二
出演/ 田中絹代 三船敏郎

井原西鶴の「好色一代女」を原作としており、溝口健二監督の最高傑作と評価されている作品。封建制度の中で自我を貫こうとした女の悲劇が優しく、しかし苛烈に描かれている。溝口監督独特のカメラワークが随所に素晴らしい効果をあげており、田中絹代が「一代女」といえる名演技を見せている。ヴェネチア映画祭監督賞受賞。



おとうと

17 金 14:00
20 月・祝 15:00
25 土 11:00

1960年/35ミリ/カラー/98分/大映
監督/ 市川崑
出演/ 岸恵子 川口浩

幸田文の自伝的小説を映画化した市川崑監督の代表作。作家である父と片足を病む後妻の間で愛を求めて与えられない弟と、その弟をかばい愛情を注ぐ姉の交流を中心として描かれる。結核で次第にすすんでいく弟はある日倒れてしまう。姉と弟の愛情が宮川一夫の素晴らしいカメラワークの中に浮かび上がる。田中絹代は母親役で登場し、毎日映画コンクール助演女優賞を獲得。



会期: 15日(水)~25日(土)
※休館日・休映日を除く
観覧料: 500円(大人)
400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

※定員制、各回入替制。
※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。
※福岡市在住の障害者の方は無料。福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

上映作品/伊豆の踊子
1933年/16ミリ/モノクロ/サイレント/106分/松竹
監督/五所平之助 出演/田中絹代 大日方傳
弁士/澤登翠
楽団/カラード・モノトーン

川端康成の同名小説が原作であり、吉永小百合や山口百恵等の主演により何度も映画化されているが、本作はその最初のものである。原作の情感をもっとも表現している作品として評価は高く、田中絹代のひたむきで可憐な演技がまた素晴らしい。



サンダカン八番娼館 望郷

17 金 19:00
20 月・祝 11:00
23 木 14:00

1974年/35ミリ/カラー/123分/東宝=俳優座映画放送
監督/ 熊井啓
出演/ 栗原小巻 田中絹代

「からゆきさん」の実態を掘り起こした山崎朋子のノンフィクションの映画化。女性史研究家三谷圭子は、天草で「からゆきさん」だったおサキと知り合い、生活を共にして、その過酷な生涯を聞き出していき、おサキを演じる田中絹代の入魂の演技が胸をうつ。ベルリン映画祭女優演技賞を始め、数々の賞を受賞した名作。



愛染かつら(総集編)

18 土 15:00
23 木 19:00
25 土 15:00

1939年/35ミリ/モノクロ/89分/松竹
監督/ 野村浩将
出演/ 田中絹代 上原謙

戦後の「君の名は」と並ぶ、すれ違いメロドラマの代表作。田中絹代主演により前編・後編・続編・完結編と製作され、有名な主題歌「旅の夜風」と共に大ヒットを記録している。戦前の田中絹代の代表作であり、これらの4本を1本にまとめたものが総集編である。



特集 ロード・ムービー／旅する映画

人はなぜ旅をするのか。何かを求める旅、漂泊の旅、帰郷の旅。旅という非日常の中で、人は成長し変化していく。旅を描いたアジア映画の名作を特集。

1日(水) 14:00 4日(土) 11:00

メルセデス、わが愛 Mercedes, Mon Amour
1993年/35ミリ/カラー/98分/トルコ 監督/ハイ・オカン 出演/イルヤス・サルマン

トルコからドイツに出稼ぎに来ている主人公のイルヤムは、お金をためて念願のベンツを手に入れる。車に乗って里帰りをしようとするイルヤムだが、道中様々な災難が降りかかってくる。果たして彼とベンツは無事故郷にたどり着けるのだろうか。ベンツを過剰に大切に扱う、イルヤムを演じるイルヤス・サルマンの軽妙な演技が素晴らしい。

日本語・英語字幕付き

2日(木) 19:00 5日(日) 15:00

国道封閉 Wolves Cry under the Moon
1997年/35ミリ/カラー/123分/台湾 監督/ホー・ピン 出演/伊能静

午後6時、台北の高速道路が突然封鎖され、街には車が溢れ出していた。殺人で警察に追われる男は、バスジャックして逃げる。上司に対する不満から仕事を放棄した運転手は、車に乗ったまま街をさまよう。そして車を盗んだ少女は、携帯電話で車の持ち主と会話を交わす。様々な人間模様を描きながら台北の夜は明けていく。

日本語・英語字幕付き

3日(金) 19:00 4日(土) 15:00

車輪 The Wheel
1993年/35ミリ/カラー/66分/バングラデシュ 監督/モルシドウル・イスラム 出演/アミール・ホク・ナドオリ

牛車で稲を運ぶ仕事をしている二人の男が、村の診療所で行き倒れた男の死体を運んでほしいと頼まれる。ところが村に行ってみると、その男はその村の者ではないと言われ、村から村へ男の身元を探して旅をすることになる。各国の映画祭で上映され、監督を一躍有名にした作品で、不条理な設定とバングラデシュの美しい自然描写が心に残る。

日本語・英語字幕付き

1日(水) 19:00 3日(金) 14:00

旅人は休まない A Man with Three Coffins
1987年/35ミリ/カラー/105分/韓国 監督/イ・チャンホ 出演/キム・ミョンゴン

妻を亡くして居所を失った主人公シン・ソクの過酷な旅を描いた作品。妻の出身地である北朝鮮へ行くこともできず、妻と生き写しの看護婦との愛を成就することもできずにさすらう主人公の姿が、哀切感溢れる映像で描かれる。イ・ボヒが死んだ妻と看護婦の二役を演じており、イ・チャンホ監督の土着信仰への回帰が色濃く表れている。東京国際映画祭国際批評家協会賞受賞。

日本語字幕付き

会期: 1日(水)~5日(日)
観覧料: 500円(大人)
400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

※定員制、各回入替制。
※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。
※福岡市在住の障害者の方は無料。福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

2日(木) 14:00 5日(日) 11:00

森浦への道 On the Road to Sampo
1975年/35ミリ/カラー/99分/韓国 監督/イ・マニ 出演/キム・ジンギュ

刑務所を出たばかりのチョンのチョンは、故郷の森浦へ帰る途中風来坊のヨルダンと出会う。また二人はベクファという女性と出会い、いつしか三人は森浦に向けて旅をすることになる。森浦(サンポ)というのは実際には存在しない架空の地名であり、三人の旅は現代人の荒涼とした精神を象徴しているように思える。イ・マニ監督の遺作となった作品。

日本語字幕付き

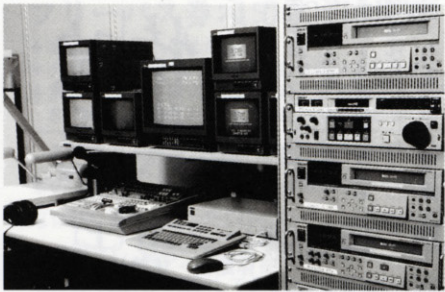
「ビデオ編集のはなし」

私が働いているビデオ研修室は、市民の皆様気軽にビデオで映像の編集・加工を体験していただくための施設です。まだ生活のなかでなじみのない「ビデオ編集」という作業ですが、その内容を簡単にまとめれば次のようになります。

- ・素材の映像を好きな順番にならべかえる
- ・タイトルなどの文字を映像に挿入する
- ・BGMやナレーションなどを映像につけ加える

そのほか「写真を素材にして映像をつく」ったり、「映像に特殊効果をつけ」たりすることなども当施設で体験できます。

ビデオ編集の利用者というと、サークルに入っ作品活動をおこなうビデオ愛好者のような人が多いと想像しているのではないのでしょうか。ところが実際は、利用者のほとんどが編集機に触れるのはじめてという方たちなのです。その利用の内容はさまざまですが、今のところ旅行やサークル行事の記録や周辺の高校・大学での学校行事の際のだしものなどの制作が多いようです。また



ビデオ編集機

かわったところでは、学校の課題としてミュージックビデオやビデオレポートを制作する学生やビデオで絵本をつくる主婦のグループ、職場研修の教材をつくる会社員なども見受けられます。

はじめて編集機に触れる人はたいいてい、はじめのうちこそ「謎のスイッチ」がたくさん並ぶその物々しい雰囲気や圧倒されますが、シーンを好きな順番につなぎなおすだけの初歩的な編集程度なら、実際さほど難しいというわけでもないで、大抵の場合その日のうちに習得していきます。

ところで勤務の傍ら利用者の方々の作業を見ていると、これまでべつだん映像制作に関わっていない方でも、程度の差こそあれ映像を表現の道具としてスムーズに使っていることに気付かされます。昨今「映像の時代」と表現されるほど日常に多くの映像と接して生活していますが、生活のなかでみんな自然と映像的な表現力を身につけてきているのかなと考えさせられます。

だから私たちの仕事も、ビデオの作り方の手ほどきをするいわゆる「インストラクター」として働くのではなく、利用者の方が自由に作業をするなかでその作業状況から彼らの表現したいことを感じとり、その表現が機器のどんな操作手順で可能なのか考え提示していくというような、いわばソフトとハードとの「橋渡し」的存在であることが重要になってきます。

ビデオ研修室インストラクター／本村 博

お知らせ

ギャラリー展示
宇野浩二展

福岡市総合図書館2階の郷土特別資料室内に「宇野浩二文庫」を2月から開設しました。これを記念して「文学の鬼」と称された、福岡出身の大正文壇を代表する作家の全体像に迫ります。

会 期：3月20日(月・祝)まで
会 場：福岡市総合図書館1階ギャラリー
観覧料：無料

お問い合わせ／092-852-0606調査相談課

INFORMATION

シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしておりますが、現在お申し込みの分は今回の3月号で完了しました。引き続き平成12年4月号～平成13年3月号までの購読を希望される方は、郵便切手(90円×12月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。継続のお申し込みをお待ちしております。
宛先：〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 映像資料課

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影された8ミリビデオや各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄、デジタルビデオの編集は不可)
※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

新たに収蔵したアジア映画のお知らせ(平成11年度分)

福岡市総合図書館は、アジアフォーカス・福岡映画祭と連動して、常に良質のアジア映画を収蔵しております。今回は、昨年の同映画祭で上映された作品等を次の通り収蔵しました。「あの感動をもう一度」「見逃して残念だった…」皆さまへの公開は、準備が整い次第、順次上映しますのでご期待ください。

闘う男をハードボイルドタッチで描いた「グッバイ・トゥモロー」(トルコ)、少年の不安を抱えた日々からのメッセージ「春へ」、香気漂う映像と音楽「魅惑」、若い二人の恋物語「としごろ」、目の不自由な少年と父親を描いた「カラー オブ ラダイス」(※写真)(以上イラン)を始めとして、「誓いの炎」、「テロリスト」(インド)、「ホセリサール」(フィリピン)、「悪女列傳」(台湾)、「ミステリー・オブ・ザ・キューブ」、「マヨネーズ」(韓国)、「ラスト マレー ウーマン」(マレーシア)、「ハノイ1946年冬」、「歳月」、「アパートメント」(ベトナム)、「新文字先生」(モンゴル)を収蔵しました。



Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

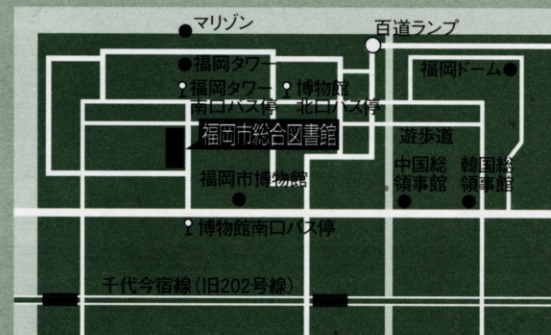
福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>

上映スケジュール

3月

1 水	14:00 メルセデス、わが愛	19:00 旅人は休まない
2 木	14:00 森浦への道	19:00 国道封閉
3 金	14:00 旅人は休まない	19:00 車 輪
4 土	11:00 メルセデス、わが愛	15:00 車 輪
5 日	11:00 森浦への道	15:00 国道封閉
6 月	休 館 日	
7 火	休 映 日	
8 水	14:00 セレプレートシネマ 101、他	19:00 穏やかな人生
9 木	14:00 ヴェンダースの友人、他	19:00 盗馬賊
10 金	14:00 青春残酷物語	19:00 June 12, 1998—at the edge of chaos
11 土	11:00 About Me...A Musical、他	15:00 Winter Oranges、他
12 日	11:00 推 手	14:00 2H
13 月	休 館 日	
14 火	休 映 日	
15 水	14:00 マダムと女房	19:00 陸 軍
16 木	14:00 西鶴一代女	19:00 マダムと女房
17 金	14:00 おとうと	19:00 サンダカン八番娼館・望郷
18 土	11:00 マダムと女房	15:00 愛染かつら(総集編)
19 日	11:00 陸 軍	15:00 西鶴一代女
20 月	11:00 サンダカン八番娼館・望郷	15:00 おとうと
21 火	休 館 日	
22 水	休 映 日	
23 木	14:00 サンダカン八番娼館・望郷	19:00 愛染かつら(総集編)
24 金	14:00 陸 軍	19:00 西鶴一代女
25 土	11:00 おとうと	15:00 愛染かつら(総集編)
26 日	14:00 サイレント映画 弁士・楽団付き上映Vol.4「伊豆の踊子」	
27 月	休 館 日	
28 火	休 映 日	
29 水	休 映 日	
30 木	休 映 日	
31 金	月 末 休 館 日	



交通アクセス：当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄：西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス：天神～都市高速経由～福岡タワー南口

(所要時間 昼間で約20分)

博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口

(所要時間 昼間で約25分)

福岡タワー南口バス停から徒歩3分

いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

読者の皆様にはお気づきだと思うが、近時、当館では映像文化の振興にむけ一般上映館とは異なる多様な企画にもチャレンジしてきている。今日の「作家との対話」もその一つであり、新進気鋭の映像作家の息吹を感じていただけたらと思う。また旅立ちの3月を意欲した「ロードムービー」や、昔懐かしい「田中絹代特集」等と、今月は当館の幅を象徴するような月となった。あとは幅広い世代のお客様のご来館を願うのだが…。(A. K)

編集雑誌